平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ９５ ※記入不要	提案機関名　神奈川県果樹組合連合会

要望問題　ウメ「十郎」の要索欠乏とみられ症状の原因解明

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

〈背景〉
「十郎」は、本県特産の梅干し用品種であるが、春先から葉にクロロシス様の症伏が現れている。

〈内容〉
「十郎」の要素欠乏と見られる症状の原因解明を要望する。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所

部　　署：生産技術部

対応区分　①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　(①、②、④の場合)
新栽培技術による低コスト・省力栽培技術の開発
(5)ウメの要素欠乏発生要因の究明と対策技術の確立
ア　ウメのマンガン欠乏症発生状況調査

対応の内容等
本年の現地調査で、「十郎」を中心に葉色が淡く、葉脈間が黄白化する現象が散見され、土壌分析の結果、土壌中の交換性マンガン含量が少ない傾向が認められました。ウメに関するマンガン欠乏症についてはこれまで報告がなく、発生状況の把握と樹体、果実品質等へ及ぼす影響を調査し、併せて対策技術をについて検討します。本年は発生原因究明のため、現地調査を実施し、マンガン欠乏症の発生状況と土壌や葉を採取し分析を行います。

（１）対照品種　　ウメ「十郎」、「南高」、「白加賀」
（２）試験期間　　平成 16 年５月～６月
（３）試験場所　　小田原、足柄ウメ産地各５園程度
（４）調査項目　　発生状況、品種、樹齢、土壌条件、土壌改良資材投入量
調査園の土壌及び葉（果実）の採取
収量、果実肥大等への影響等

解決予定年限　①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内

備　考